2023年２月27日の
日本教育新聞にめぐみこども園の
園内研修の特集が掲載されました。

日本教育新聞

2023年（令和5年）２月２７日（月曜日）　（6）

幼稚園・保育園

マメ先生が伝える
保育のエッセンス

〔88〕

大豆生田　啓友・玉川大学教授

ワクワクする園共同体づくりを

〈今回の言葉〉
「子どもがワクワク、保育者がワクワク、保護者がワクワクの循環が生まれていることが分かります。それをファシリテートしてきたのは、園長などのリーダー層です。この事例から、子ども主体のワクワクする園共同体づくりのマネジメントがいかに重要であるかが理解できます」

先日、ある地方のこども園を訪問しました。ここは数年前から、子ども主体の保育への転換を目指して動いている園です。最初にこの園の保育の話を伺ったときには、保育者の意図に子どもをどう乗せるかなどの話が多かったことを記憶しています。そして、保育者たちも、子どもの姿や保育にワクワクしている様子はあまり見られませんでした。

その後コロナ禍となり、年に何回かオンラインで、この園の研修に関わってきました。そして今回、保育を見せていただき驚きました。大きく変化しているのです。

実はこの園では、年間を通して各クラスがチャレンジテーマを持ちながら、毎回、写真などで事例を持ち寄り、園内研修を行ってきたのです。これは、私たちが推奨する「往還型研修」の方法です。私との全体研修で学んだことを基に、クラスごとにチャレンジテーマを決めて、その後も継続的に保育の質向上を目指すものです。

訪問時、まずは各クラスを見せていただいたのですが、とにかく子どもが遊びに熱中しています。3歳以上児クラスでは、影絵で映画館のお話作りをする子たち、水族館のショーをつくる遊びをする子たち、ペットボトルのキャップを使ってゲームをつくる子たちなどの姿が豊かに展開されているのです。サークルタイムで、自分たちの遊びについて話し合う姿もありました。実に主体的で協働的に学び、成長の姿が見られたのです。

午後の園内研修の場では各クラスの実践発表があり、0歳児では絵本への親しみから食べ物への興味が生まれて見立て遊びが行われる事例や、2歳児のお化けへの興味を受けて5歳児と異年齢交流を行う中で、遊びが豊かに展開する様子などが話されました。

そこで特に印象的だったのは、保育者たちが実に楽しそうに保育を語り合っていたことです。話が止まらないのです。若手保育者が元気に話しているのも、素晴らしかったです。

しかも、この園では保護者の満足感も高まり、この数年で園児数がどんどん増えているとのことです。子どもがワクワク、保育者がワクワク、保護者がワクワクの循環が生まれていることが分かります。それをファシリテートしてきたのは、園長などのリーダー層です。この事例から、子ども主体のワクワクする園共同体づくりのマネジメントがいかに重要であるかが理解できます。今、このような園が全国に広がり始めているのです。

次回は3月13日付掲載